

ガジュマルの聲



＜教育目標＞
『豊かな未来を拓く
児童の育成』

発行
五島市立富江小学校
校長 坂本 憲司

研究発表会を終えて

富江小学校では、五島市教育委員会の御指導を仰ぎながら、3年間「特別支援教育」の研究に取り組んできました。11月2日（金）の研究発表会には、五島市内の先生方が45名参加されました。

研究内容を簡単に説明すると、次のようになります。

○富江小学校に通う全ての子どもが、楽しく、安全・安心に学ぶことができるよう、指導・支援の方法を工夫すること。

「特別支援教育」と言いながら、「特別なこと」はしていません。「当たり前の方が普通にできる」「普通のことが当たり前になる」ことを目指して、研究を進めてきました。4年生算数、6年生国語の授業を公開しましたが、どの子供も意欲的に学習に取り組む姿を見せ、参観者に好評でした。今回御参加いただいた前校長の道下政宏先生と、緑丘小学校の三河郁靖先生が、子供たちの成長を大絶賛してくださいったことが、とても嬉しかったです。



研究発表会に参加された先生方から、「国語・算数の授業の在り方」について、貴重な御意見をいただきました。

○問題からめあてにつなぐ流れに、工夫の余地がある。
○教師の説明の言葉を、もっと削った方がよい。 等

高まってきた学習意欲を大切にしながら、子供たちが「分かる・できる」を実感できるよう、授業改善に努めていきます。

内村航平氏の教え

10月28日（土）、福江文化会館で「第30回『教育県長崎』振興大会五島大会」が開催されました。五島の子供たちを「『夢・憧れ・志』にあふれ、心身ともにたくましく、タフに育てる」ことを目標に掲げた大会でした。久賀小中学校の子供たちによる、圧巻の太鼓演奏。村上富憲教育長の進行の元、3人の提言者が「タフな心を身につけた子供の育成」というテーマで主張し合ったシンポジウム。中身の濃い大会でした。

今回は、内村航平氏の講演内容から、特に印象に残った内容を抜粋して御紹介します。

○何か大きな事を成し遂げるために、才能なんて
いらぬ。では、何が必要か？（4つ）

1. 「好き」ということ（没頭力）

※内村氏にとっては、体操が「好きでたまらない」
大切なもの

(1) 「好き」ということが、頑張れるエネルギーとなる

2. 圧倒的努力（「死ぬ気でやる」こと）

(1) 結果を残す人は、努力をしているのではなく、やるべきことをしているだけ。努力と思っていない。

(2) 本気で何かを成し遂げるためには、他の誰よりも量も質もやらなければならない。それが「死ぬ気でやる」ということ。

3. やり続けること（継続力）…これが重要

(1) 1ミリずつ積み重ねる（1日、1日の目標をやり遂げる）という意識をもつ。

4. 考えること…誰にでも壁は立ちほだかる

(1) どうやったら乗り越えられるか、考える。

(2) 誰でも「やる気が起きない」という時はある。やる気の有無は関係ない。ひとまず「無心」で取り組む。まずは行動することで、数十分後には没頭できている。

富江小学校の子供たちへ。

○まずは、「好きでたまらない」と思える、大切なものを見つけよう！「夢・憧れ・志」をもとう！
全てはここから始まります。